



DFM Studio

DFM Studio

インストールガイド

株式会社エリジョン

2022年1月

目次

1. はじめに	1
1.1. インストール対象製品と実行対象インストーラー	1
1.2. Sentinel RMS License Manager のインストール	3
2. ASFALIS SmartLauncherを利用する場合	4
2.1. ASFALIS SmartLauncherの導入	4
2.2. DFM Studioパラメーターファイルの準備と配置	5
2.2.1. パラメーター設定ツール利用の際の注意点	11
2.3. DFM Studio Inspectorの導入	12
2.3.1. 実行時の注意事項	12
2.3.2. 動作環境	12
2.3.3. DFM Studio Inspectorのインストール	13
2.3.4. DFM Studio Inspectorのサイレントインストール	16
2.4. 3DxSUITE Viewer (Model Viewer)の導入	18
2.4.1. 動作環境	18
2.4.2. 手動インストール	18
2.4.3. サイレントインストール	24
2.4.4. 起動手順	25
2.4.5. 終了手順	25
2.4.6. アンインストール手順	25
3. ASFALIS TransServerを利用する場合	27
3.1. ASFALIS Slave Nodeの導入	27
3.1.1. ASFALIS Slave Nodeの新規インストール	27
3.1.2. DFM Studioモジュールのバージョンアップ手順	30
3.2. ASFALIS TransServerの導入	31
3.2.1. ASFALIS TransServerの新規インストール	31
3.3. ASFALIS TransServerの設定	32
3.4. DFM Studio Inspectorの導入	34
3.4.1. 実行時の注意事項	34
3.4.2. 動作環境	34
3.4.3. DFM Studio Inspectorのインストール	35
3.4.4. DFM Studio Inspectorのサイレントインストール	38
3.5. 3DxSUITE Viewer (Model Viewer)の導入	40
3.5.1. 動作環境	40

3.5.2. 手動インストール	40
3.5.3. サイレントインストール	46
3.5.4. 起動手順	47
3.5.5. 終了手順	47
3.5.6. アンインストール手順	47

1. はじめに

本ドキュメントでは、DFM Studioを利用するための製品群のインストール手順について説明します。DFM Studioを利用するためには必要な各製品のインストーラーは、製品ごとに提供しています。DFM StudioはASFALIS SmartLauncher、もしくはASFALIS TransServerを用いて利用できます。想定している使用方法、所有されているライセンス、負荷の分散等を考慮して、いずれの製品をどのコンピューターにインストールするかを決定してください。

1.1. インストール対象製品と実行対象インストーラー

各製品のインストールに必要なファイルと関連するドキュメントは以下のとおりです。

表 1. インストールに必要なファイルと参照ドキュメント

インストール対象製品	インストール用のファイル	関連するドキュメント
Sentinel RMS License Manager	license_server_for_dfmstudio_v#.##.zip	<ul style="list-style-type: none"> 1.2, “Sentinel RMS License Manager のインストール” Sentinel RMS License Managerセットアップ&クイックスタートガイド <ul style="list-style-type: none"> license_server_for_dfmstudio_v#.##\document 内
DFM Studioパラメーターセットアップツール	dfmstudio_v#.##.parameter_settings_tool.zip	<ul style="list-style-type: none"> 2.2, “DFM Studioパラメーターファイルの準備と配置” DFM Studioパラメーターセットアップツール（管理者向け）操作ガイド <ul style="list-style-type: none"> dfmstudio_v#.##.parameter_settings_tool\document 内
DFM Studio 用 ASFALIS SmartLauncher	smartlauncher_for_dfmstudio_v#.##.zip	<ul style="list-style-type: none"> 2.1, “ASFALIS SmartLauncherの導入” DFM Studio 用 ASFALIS SmartLauncher インストールガイド <ul style="list-style-type: none"> smartlauncher_for_dfmstudio_v#.##\document 内

インストール対象製品	インストール用のファイル	関連するドキュメント
DFM Studio 用 ASFALIS TransServer	transserver_for_dfmstudio_v#.#.#.zip dfmstudio_v#.#.#_scenario_check.zip dfmstudio_v#.#.#_scenario_check_report.zip dfmstudio_v#.#.#_scenario_report.zip	<ul style="list-style-type: none"> • 3.2, “ASFALIS TransServerの導入” • ASFALIS TransServer インストールガイド <ul style="list-style-type: none"> ◦ transserver_for_dfmstudio_v#.#.#\document 内
DFM Studio 用 ASFALIS スレーブノード	slavenode_for_dfmstudio_v#.#.#.zip	<ul style="list-style-type: none"> • 3.1, “ASFALIS Slave Nodeの導入” • ASFALIS スレーブノード インストールガイド <ul style="list-style-type: none"> ◦ slavenode_for_dfmstudio_v#.#.#\document 内
DFM Studio Inspector	dfmstudio_v#.#.#_inspector.zip	<ul style="list-style-type: none"> • 2.3, “DFM Studio Inspectorの導入” • DFM Studio インストールガイド（本ドキュメント）
DFM Studio 用 3DxSUITE Viewer (Model Viewer)	modelviewer_for_dfmstudio_v#.#.#.zip	<ul style="list-style-type: none"> • 2.4, “3DxSUITE Viewer (Model Viewer)の導入” • DFM Studio インストールガイド（本ドキュメント）

1.2. Sentinel RMS License Manager のインストール

DFM Studioを構成する各製品は、Thales 社製の Sentinel RMS License Manager によりライセンス管理されます。

1. license_server_for_dfmstudio_v#.#.#.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）にコピーして展開します。
2. 以下のインストーラーを実行して、Sentinel RMS License Manager を導入します。
導入手順の詳細は、別冊 "Sentinel RMS License Manager セットアップ&クイックスタートガイド" を参照してください。

[Sentinel RMS License Manager インストーラー】

license_server_for_dfmstudio_v#.#.#\installer\setup.exe

Sentinel RMS License Manager セットアップ&クイックスタートガイド

license_server_for_dfmstudio_v#.#.#\document\LicenseServer_QuickStartGuide_jp.pdf

- Sentinel RMS License Manager は、DFM Studio を構成する各製品をインストールするコンピューターと同じコンピューターにインストールすることも、別のコンピューターにインストールすることも可能です。
- 別のコンピューターにインストールする場合には、そのコンピューターと DFM Studio を構成する各製品がインストールされるコンピューターの間で通信ができるように設定してください。
- Sentinel RMS License Manager は対象となる環境で 1 台のコンピューターにだけインストールすればよく、DFM Studio を構成する各製品をインストールするすべてのコンピューターにインストールする必要はありません。



2. ASFALIS SmartLauncherを利用する場合

本章では、ASFALIS SmartLauncherを利用して、DFM Studioの検証実行環境を導入する手順について説明します。ASFALIS TransServerを用いてDFM Studioを利用する場合、[3. ASFALIS TransServerを利用する場合](#)を参照ください。

2.1. ASFALIS SmartLauncherの導入

1. smartlauncher_for_dfmstudio_v#.##.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）にコピーして展開します。
2. 以下のインストーラーを実行して、ASFALIS SmartLauncher を導入します。
導入手順の詳細は、別冊 "DFM Studio 用 Elysium ASFALIS SmartLauncher インストールガイド" を参照してください。

[ASFALIS SmartLauncher インストーラー]

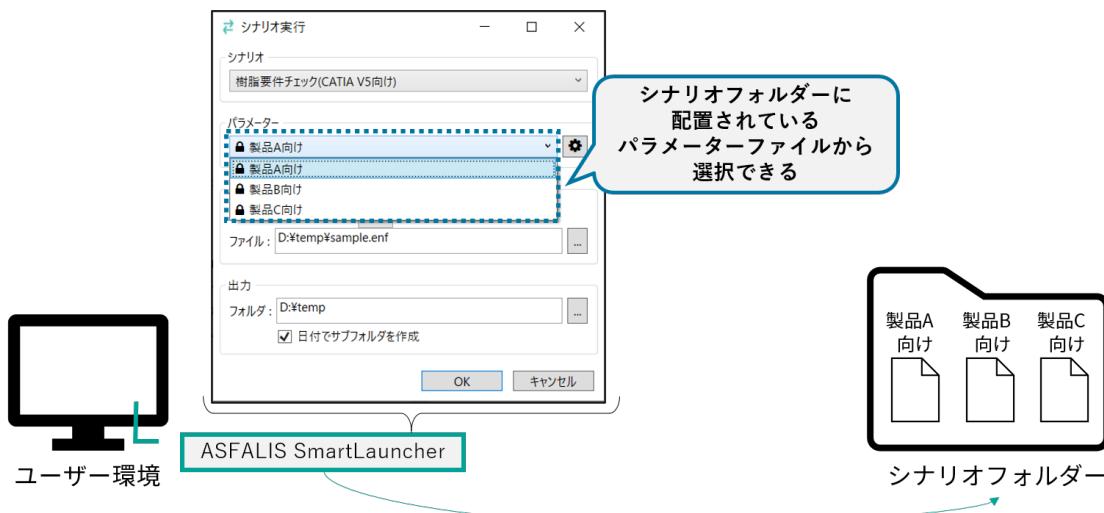
```
smartlauncher_for_dfmstudio_v#.##.\installer\setup.exe
```

[DFM Studio 用 Elysium ASFALIS SmartLauncher インストールガイド]

```
smartlauncher_for_dfmstudio_v#.##.\document\ASFALIS_SmartLauncher_for_DFM_Studio_Installation_Guide_ja.pdf
```

2.2. DFM Studioパラメーターファイルの準備と配置

ASFALIS SmartLauncherでは、DFM StudioパラメーターファイルをASFALIS SmartLauncherに登録してあるシナリオフォルダーに配置しておくことで、定められたパラメーター設定をユーザーに選択させることができます。自社の設計標準に準拠したパラメーターでの検証をユーザーに促したい場合は、次の手順でDFM Studioパラメーターファイルをユーザー環境に展開します。



- [DFM Studioパラメーターファイルとは、検証時の形状認識や合否判定に用いられる閾値が定められているファイルです。DFM Studioパラメーターファイルを正しく設定することで、自社の設計標準と同等の検証内容をDFM Studioで実現できます。]
- シナリオとは、検証の種類を表す名称です。ユーザーはシナリオを選択することで、入力CADフォーマット、樹脂要件/板金要件検証、レポートあり/なしを指定することができます。
例えば、"樹脂要件チェック_レポート付(CATIA V5向け)"というシナリオを選択した場合、CATIA V5データを入力として、樹脂要件検証を実行し、レポートも同時に出力することができます。

1. dfmstudio_v#.##_parameter_settings_tool.zip を作業するPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）にコピーして展開します。
2. 自社の設計標準を参照するなどして、DFM Studioパラメーターファイル(.ini)を作成します。パラメーター設定ツールと管理者用マニュアルはZIPフォルダーに含まれています。

[DFM Studioパラメーター設定ツール（管理者向け） / 樹脂要件検証用】

dfmstudio_v#.##_parameter_settings_tool\util\dfms_param_set_plastic_admin_ja.xls
m

[DFM Studioパラメーター設定ツール（管理者向け） / 板金要件検証用】

dfmstudio_v#.##_parameter_settings_tool\util\dfms_param_set_sheet-
metal_admin_ja.xls

[DFM Studioパラメーター設定ツール（管理者向け）操作ガイド】

dfmstudio_v#.##_parameter_settings_tool\document\DFM_Studio_Parameter_Setting
s_Tool_Admin_Manual_ja.pdf

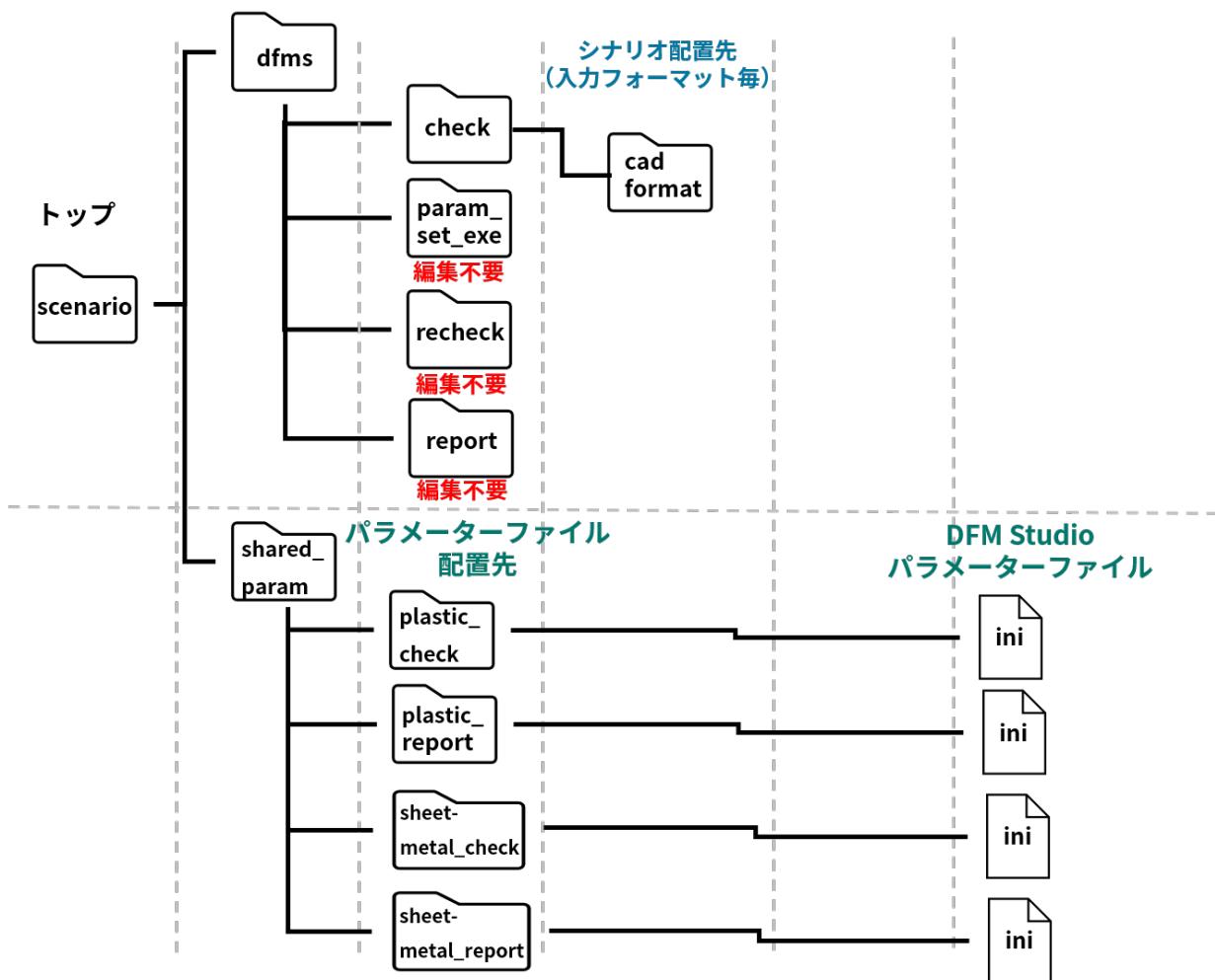
- DFM Studioパラメーターファイルの作成方法は、別冊 "DFM Studioパラメーター設定ツール（管理者向け）操作ガイド" を参照してください。
3. 下記のフォルダーをシナリオフォルダーに指定することで、後述するシナリオ設定を利用できます。

dfmstudio_v#.##_parameter_settings_tool\scenario



- パラメーターファイルを複数ユーザー間で共有する場合は、DFM Studioパラメーターファイルを含むシナリオフォルダーを、ユーザーが参照できる共有フォルダーに配置します。

4. 作成したDFM Studioパラメーターファイルをシナリオフォルダーに配置します。シナリオフォルダーの構成は以下になります。



シナリオフォルダー(トップ)

ASFALIS SmartLauncherのシナリオフォルダーとしてしてするフォルダーです。

dfms フォルダー

- scenario\dfms\check

初回検証実行用のシナリオを配置するフォルダーです。

不要な入力CADフォーマットがある場合は、該当するフォルダー
(scenario\dfmstudio\check\"cad format")を削除してください。削除することで不要なシナリオがユーザーに表示されなくなります。

- scenario\dfms\param_set_exe

ASFALIS SmartLauncher上からパラメーターを編集するためのツールが保存されているフォルダーです。



編集は不要です。

- scenario\dfms\recheck

再検証用のシナリオを配置するフォルダーです。
シナリオは入力CADフォーマット問わず共通です。



編集は不要です。

- scenario\dfms\report

レポート出力用のシナリオを配置するフォルダーです。



編集は不要です。

shared_param フォルダー

- scenario\shared_param\plastic_check

scenario\shared_param\plastic_report

scenario\shared_param\sheets-metal_check

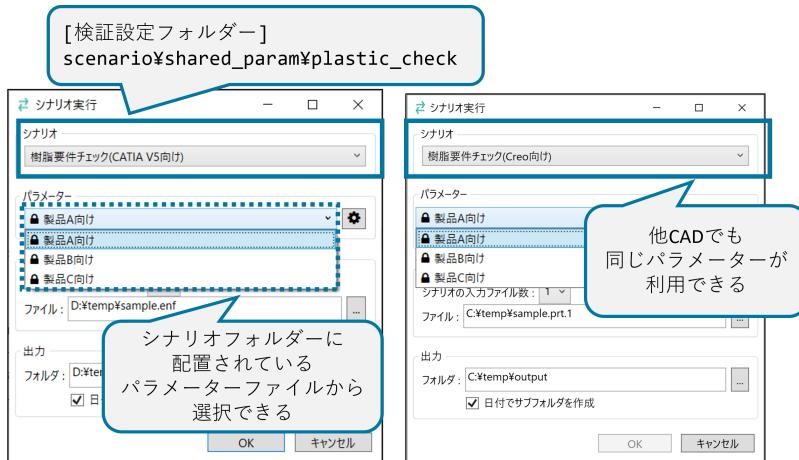
scenario\shared_param\sheets-metal_report

shared_param フォルダー以下の "plastic_check"、 "plastic_report"、 "sheet-metal_check"、 "sheet-metal_report" の各フォルダーが、 DFM Studio パラメーターファイルを配置するフォルダーです。

初期設定では、 default.ini 等が配置されています。

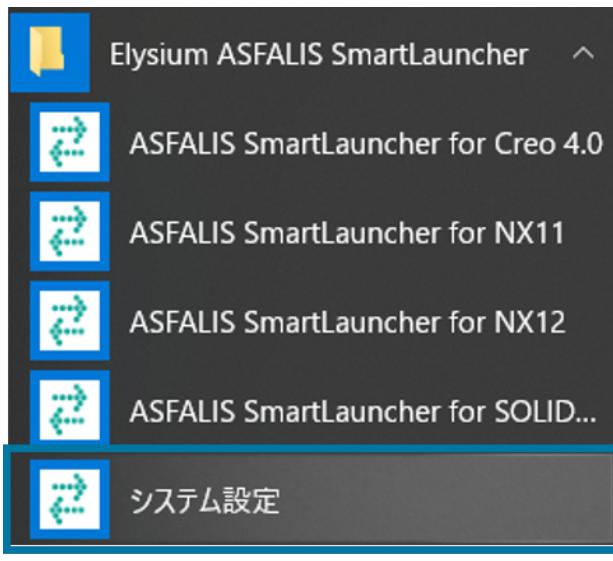


- 例えば、 scenario\shared_param\plastic_check 以下に、 製品 A 向け .ini 、 製品 B 向け .ini 、 製品 C 向け .ini の 3 つのファイルを配置すると、ユーザーは配置された 3 つのパラメーターファイルを樹脂要件検証および再検証の際に利用できます。
- 同様に、 scenario\shared_param\plastic_report 以下に、 製品 A レポート .ini 、 製品 B レポート .ini 、 製品 C レポート .ini の 3 つのファイルを配置すると、ユーザーは配置された 3 つのパラメーターファイルを樹脂要件レポート出力の際に利用できます。
- 配置したパラメーターファイルは、シナリオの入力 CAD フォーマットに依らず、適用されます。



他CADでも
同じパラメーターが
利用できる

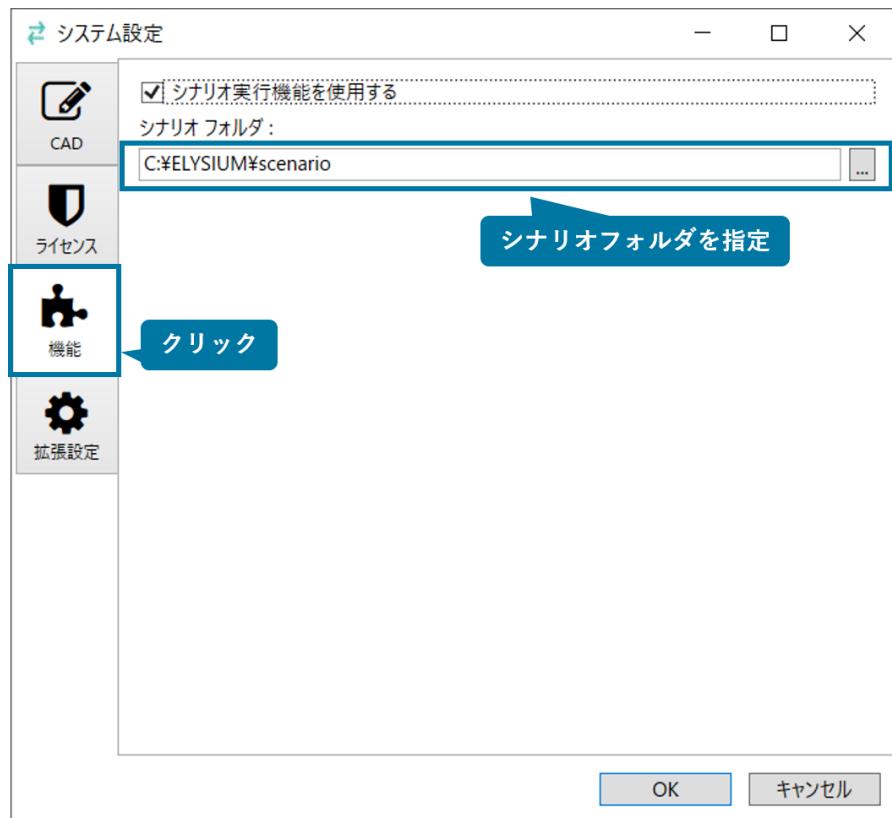
- ASFALIS SmartLauncherの設定から、シナリオフォルダーの設定を前の手順で配置したシナリオフォルダーに変更します。Windowsのスタートメニューから、[Elysium ASFALIS SmartLauncher]-[システム設定]を選択します。



クリック

- システム設定ダイアログで"機能"を選択します。
- 機能タブでシナリオフォルダーを指定し、OKを押します。
 - scenario フォルダーを指定してください。
例:

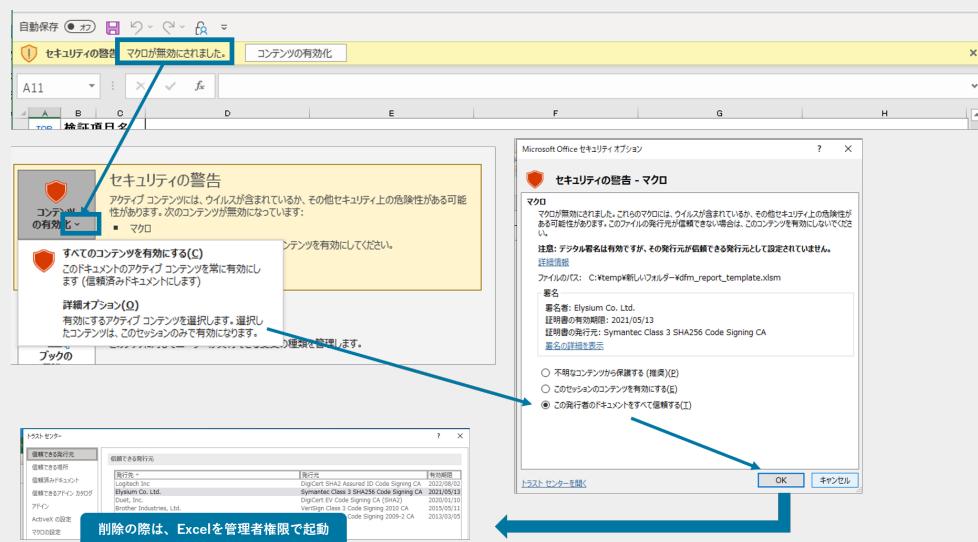
\share-server\scenario



配置されたシナリオフォルダーのDFM Studioパラメーターファイルを参照できるようになります。

2.2.1. パラメーター設定ツール利用の際の注意点

パラメーター設定ツール（管理者用、ユーザー用とともに）を利用するためには、エクセル上のデジタル証明書の承認が必要な場合があります。以下の図を参照し、必要に応じてシステム管理者にご確認ください。



2.3. DFM Studio Inspectorの導入

1. dfmstudio_v#.##_inspector.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）にコピーして展開します。
2. 以下のインストーラーを実行して、DFM Studio Inspector(以下、Inspectorと呼びます)を導入します。

[DFM Studio Inspector インストーラー]

dfmstudio_v#.##_inspector\installer\setup.exe



インストールは Administrator 権限のあるユーザーで行ってください。

2.3.1. 実行時の注意事項

Inspector実行時には、以下のフォルダーのアクセス権限が必要です。

- %TMP%、%TEMP%、%APPDATA%（変更権限）
- ファイル出力フォルダー（変更権限）

2.3.2. 動作環境

CPU	Windows 10 Pro 64ビット版（*1）が稼働可能なCPU
OS	Windows 10 Pro 64ビット版（*1）
メモリー	4GB以上(推奨 8GB)
ストレージ	500MB以上の空き容量
ディスプレイ	1280×1024ドット以上表示可能なディスプレイ、ダブルバッファに対応したOpenGLビデオボード（*2）

（*1）Windows は米国 Microsoft 社の登録商標です。

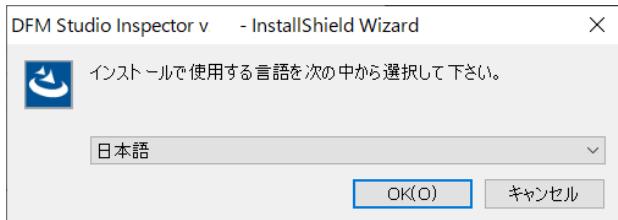
（*2）OpenGL は米国 Hewlett Packard Enterprise社の登録商標です。

2.3.3. DFM Studio Inspectorのインストール

1. インストーラーの起動

- dfmstudio_v#.#.inspector\installer\setup.exe を実行します。

2. セットアップ言語の選択



- 日本語を選択し、「OK」を選択します。

3. セットアップ前提条件

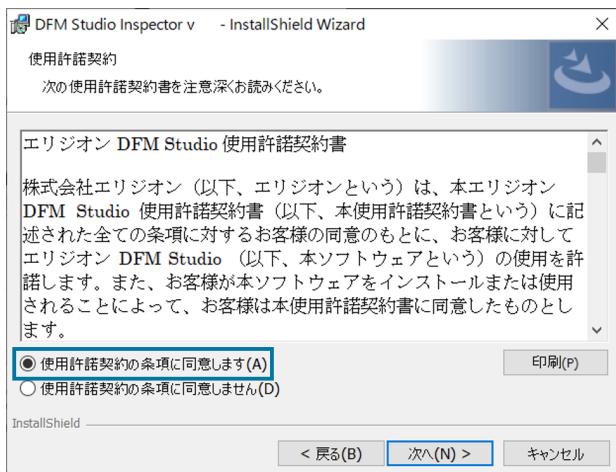
- ランタイムのインストールを促すダイアログが表示された場合は「インストール」を選択します。
- 前提条件が揃っている場合、このダイアログは表示されません。

4. Inspector のセットアップ



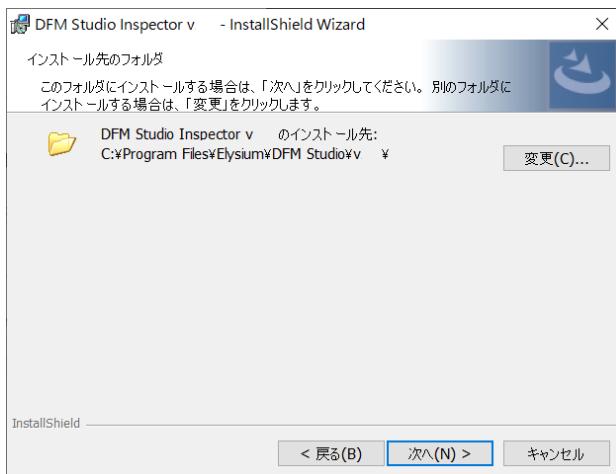
- 「次へ」を選択します。

5. 使用許諾契約



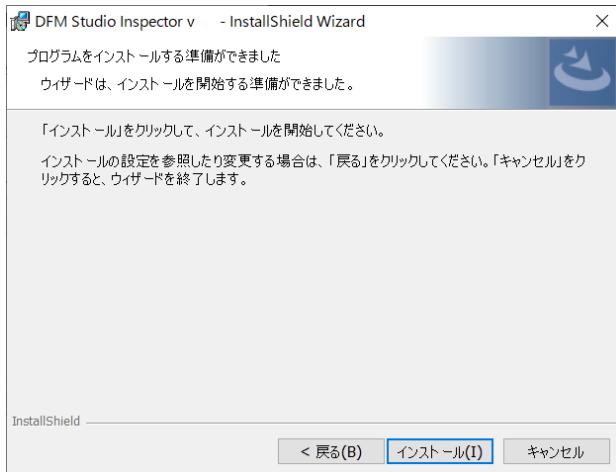
- 。契約内容を確認後、「次へ」を選択します。

6. インストール先の選択



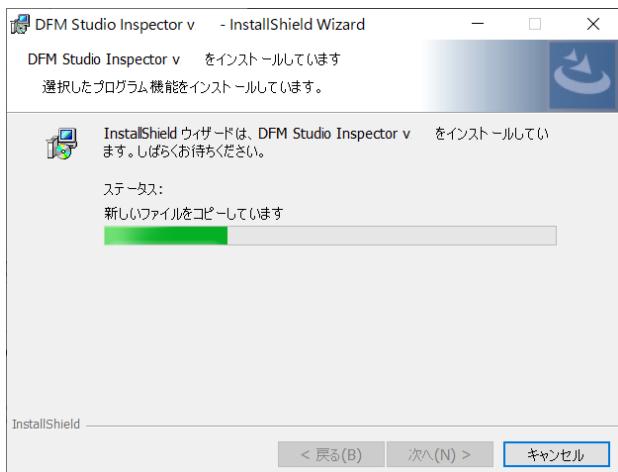
- 。インストール先フォルダーを指定し、「次へ」を選択します。

7. インストールの確認

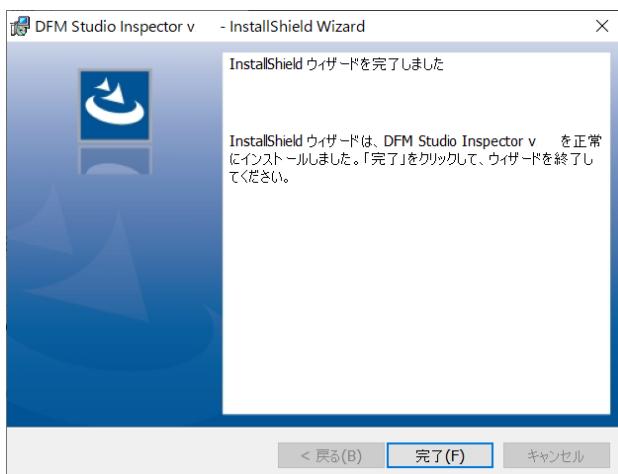


- 。「インストール」を選択します。

8. インストールの実行



9. インストールの完了



- 「完了」を選択して、インストールを終了します。

2.3.4. DFM Studio Inspectorのサイレントインストール

サイレントインストールでは、インストーラーのGUI操作を行うことなく製品を導入できます。複数のPCへのインストールを行う際などに便利な機能です。

サイレントインストール

コマンドにて Inspector の新規導入やアップグレードを行います。

実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンドライン引数の説明をご参照ください。

例:

```
D:\share\installer\setup.exe /s  
/v"/l* ^"C:\temp\install.log"^" INSTALLDIR="^"C:\Program Files\Elysium\DFM  
Studio\v" /qn"
```

サイレントアンインストール

コマンドにてサイレントアンインストールを行う手順です。

以下のコマンド例とコマンドライン引数の説明をご参照ください。

例:

```
D:\share\installer\setup.exe /s /x /v"/l* ^"C:\temp\uninstall.log"^" /qn"
```



- 現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

コマンドライン引数

サイレントインストールを実行する際にインストーラー (setup.exe) に渡すコマンドライン引数の一覧です。

コマンド引数	説明
/s	インストールやアンインストールをサイレントモードで実行します。
/x	アンインストールを実行します。
/x	設定しない場合はインストールが実行されます。
/v	<p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。 (Msieexecに引数を渡す)</p> <ul style="list-style-type: none"> • /qn : インストール時にダイアログを表示しません。 • /qn+ : インストール完了時にダイアログを表示します。 • /I* '<ログファイル>' : ログファイルのパスを指定します。 (/I*とファイル名の間に半角スペースが必要) • INSTALLDIR="<インストールフォルダー>": インストール先のフォルダーを指定します。 (インストール時のみ指定が必要)

2.4. 3DxSUITE Viewer (Model Viewer)の導入

- modelviewer_for_dfmstudio_v#.#.#.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）にコピーして展開します。
- 以下のインストーラーを実行して、Elysium 3DxSUITE Viewer(以下、3DxSUITE Viewerと呼びます。)を導入します。

[Model Viewer インストーラー]

modelviewer_for_dfmstudio_v#.#.#\installers\Elysium_3DxSUITE_EX*.*_Viewer.exe



インストールは Administrator 権限のユーザーで行ってください。

2.4.1. 動作環境

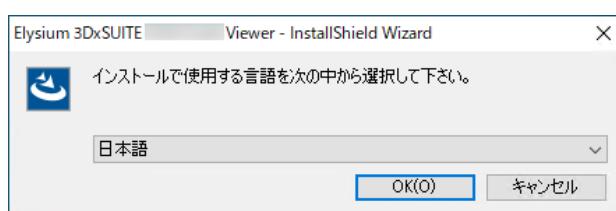
CPU	Windows 8.1 Pro 64-bit、Windows 10 Pro 64-bit (1909 - 21H1) (*1) が稼働可能なCPU
メモリー	2GB 以上 (推奨4GB)
OS	Windows 8.1 Pro 64-bit、Windows 10 Pro 64-bit (1909 - 21H1) (*1)
対応言語	日本語、英語、中国語 (簡体字)
ディスプレイ	1280×1024 ドット以上表示可能なディスプレイ ダブルバッファに対応した OpenGL ビデオボード (*2)

(*1) Windows は米国 Microsoft 社の登録商標です。

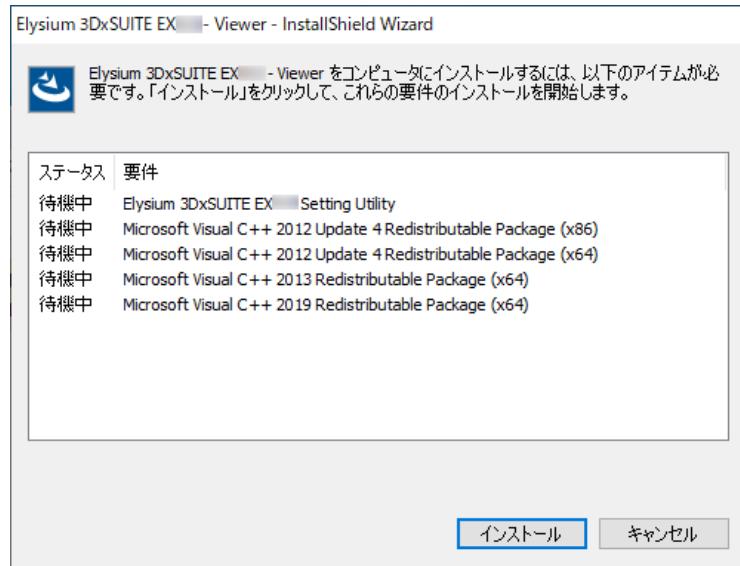
(*2) OpenGL は米国 Hewlett Packard Enterprise社の登録商標です。

2.4.2. 手動インストール

- 3DxSUITE Viewer のインストーラーを実行します。
 - インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX*.*_Viewer.exe
(EX*.* は 3DxSUITE のバージョン)
- インストールで使用する言語を選択して[OK]を選択します。

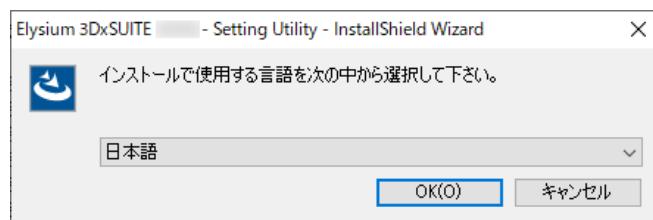


- このダイアログが表示された場合、[インストール] を選択してインストールを行います。(既にインストールされている環境では、このダイアログは表示されません。)

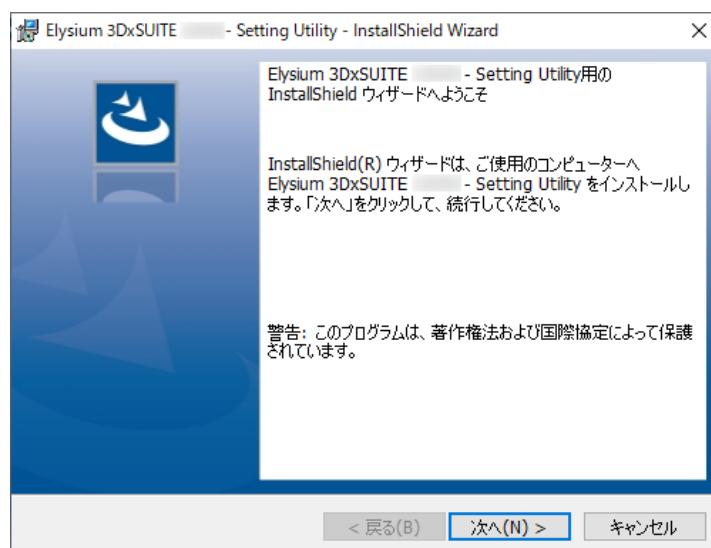


4. 3DxSUITE 設定ユーティリティがインストールされていない場合、3DxSUITE 設定ユーティリティのインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。3DxSUITE 設定ユーティリティが既に導入されている場合は、3DxSUITE 設定ユーティリティインストール後の手順へ進んでください。

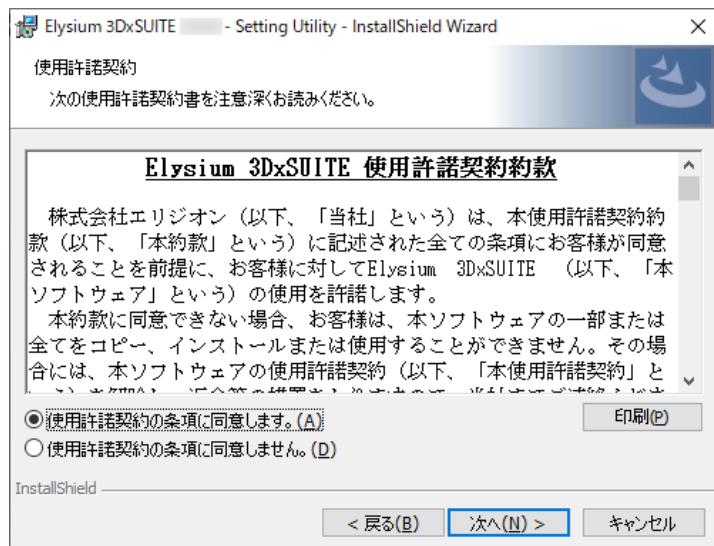
a. インストールで使用する言語を選択して [OK] を選択します。



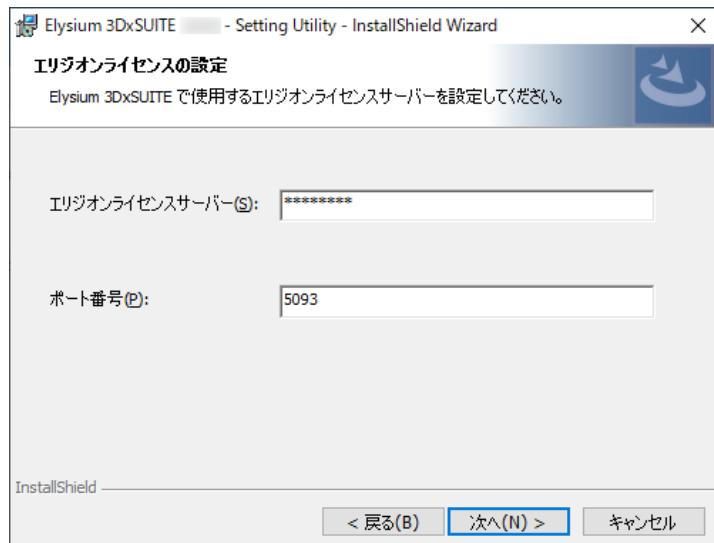
b. インストールウィザードが起動します。[次へ] を選択します。



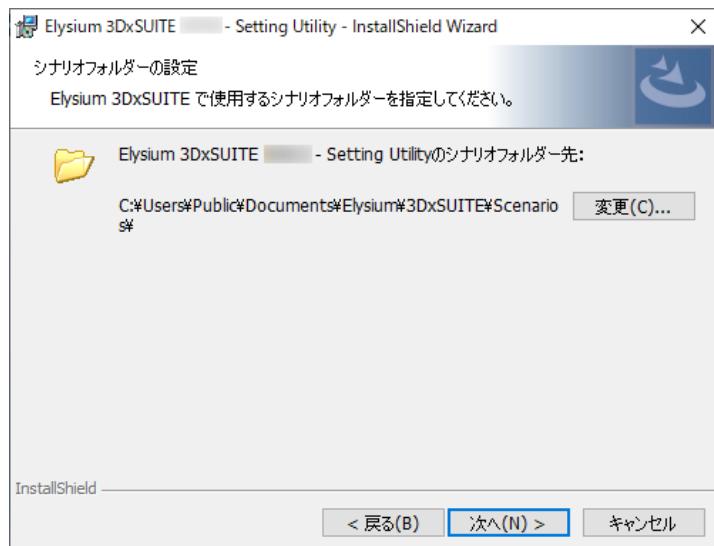
c. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には「使用許諾契約の条項に同意します」を選択して [次へ] を選択します。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



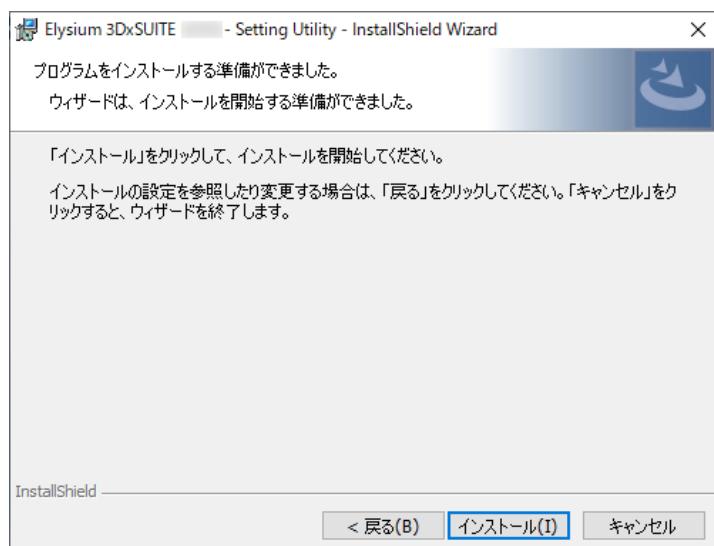
- d. ライセンスの設定画面が表示されます。Sentinel RMS License Manager をインストールしたコンピューターのホスト名を入力し、必要であればポート番号も変更した上で [次へ] を選択します。



- e. シナリオフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] を選択します。



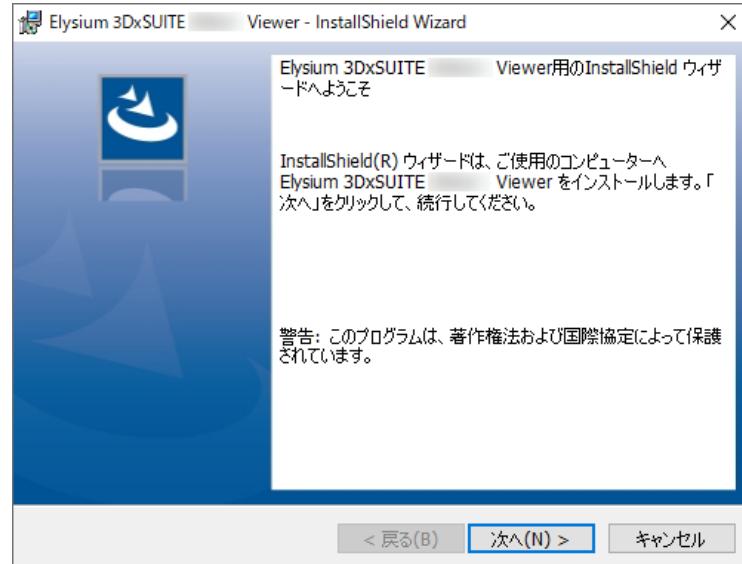
f. [インストール] を選択してインストールを開始します。



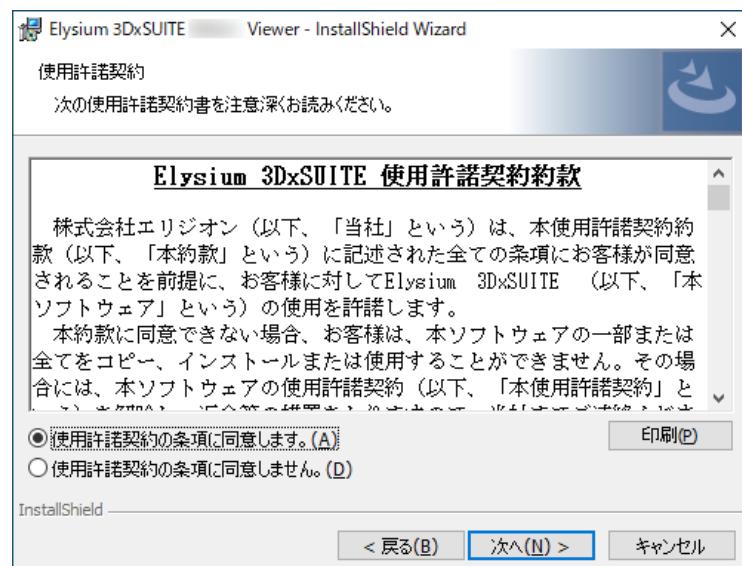
g. 3DxSUITE 設定ユーティリティーのインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] を選択してインストーラーを終了します。



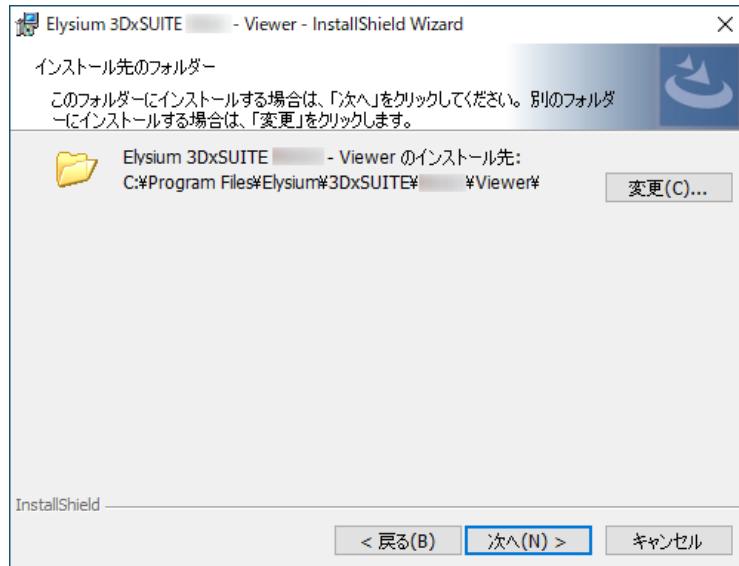
5. Viewer のインストールウィザードが表示されます。「次へ」を選択します。



6. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には「使用許諾契約の条項に同意します」を選択してから [次へ] を選択します。

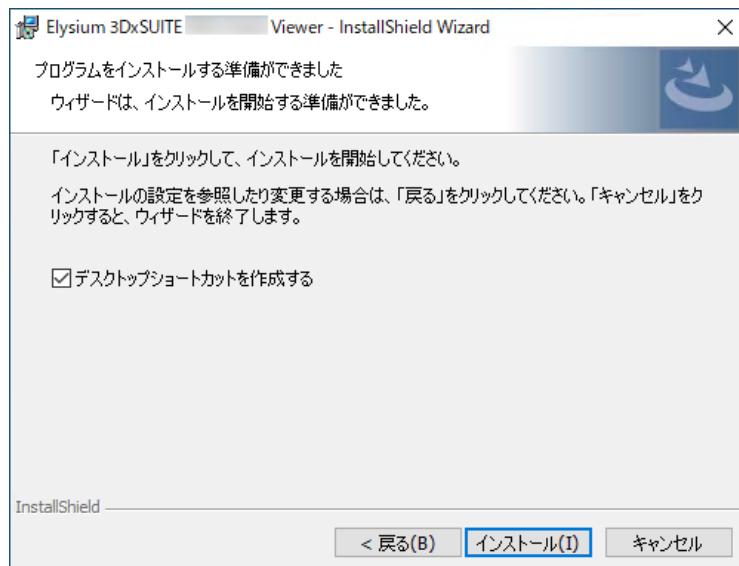


7. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] を選択して変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら、[次へ] を選択します。

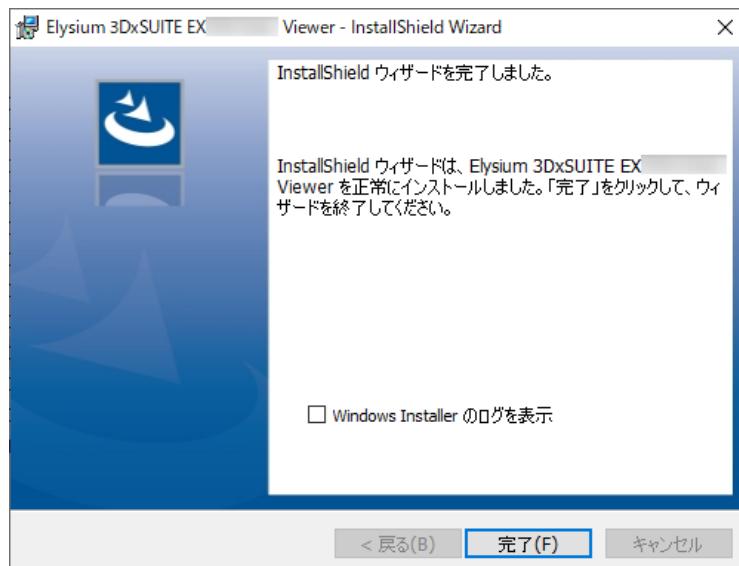


インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

- 以下のダイアログが表示されます。デスクトップショートカットを作成しない場合はチェックを外します。[インストール] を選択してインストールを開始します。



- インストールが終了すると以下のダイアログが表示されます。[完了] を選択してダイアログを閉じます。



2.4.3. サイレントインストール

コマンドにて 3DxSUITE Viewer の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明をご参照ください。

- コマンド例

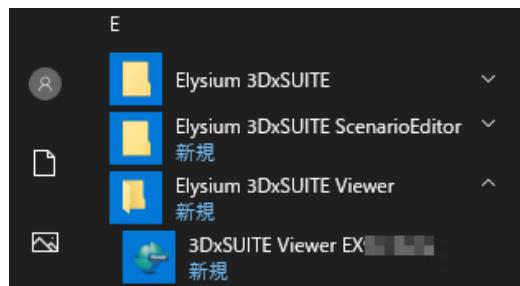
```
Elysium_3DxSUITE_EX9.0_Viewer.exe /s /v"/l* \"C:\temp\install.log\"  
INSTALLDIR=\"C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\EX9.0\Viewer\" /qn"
```

サイレントインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	インストールをサイレントモードで実行します。	必須
/v	<p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /l* "<ログファイル>": ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間に半角スペースが必要です。 • INSTALLDIR="<インストールフォルダー>": インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。 • /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 	任意

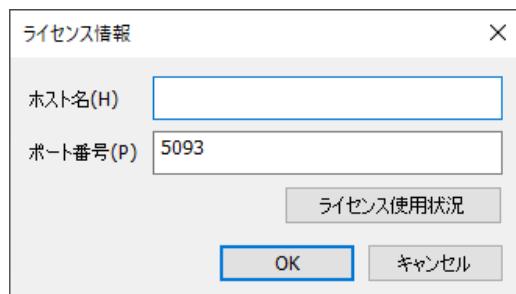
2.4.4. 起動手順

Windows スタートメニューから [Elysium 3DxSUITE Viewer] - [3DxSUITE Viewer EX*.*] を選択します。(*.* は 3DxSUITE Viewer のバージョン番号)



ライセンス設定

インストール後、初めて 3DxSUITE Viewer を起動する時にライセンス設定のダイアログが表示される場合があります。次回起動時からは、このダイアログは表示されません。なお、本ダイアログは 3DxSUITE Viewer 起動後に [ヘルプ] - [ライセンス情報] を選択して開くこともできます。



"ライセンス使用状況" を選択するとライセンスの使用状況を確認することができます。



- ライセンス情報ダイアログで初期値を変更して [OK] を選択した場合、3DxSUITE Viewer を利用する全ユーザー共通の設定としてライセンス情報が保存されます。その場合、後で 3DxSUITE 設定からライセンスに関する設定を変更しても、3DxSUITE Viewer のライセンス情報は変更されません。
- ライセンス情報ダイアログで初期値を変更しても [OK] を一度も選択していない場合、3DxSUITE 設定に設定されている内容を参照してライセンスを確保します。そのため 3DxSUITE 設定でライセンスに関する設定を変更すると、3DxSUITE Viewer のライセンス情報も変更されます。

2.4.5. 終了手順

メニューの [ファイル] - [アプリケーションの終了] を選択するか、ウインドウを閉じて終了してください。

2.4.6. アンインストール手順

手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3DxSUITE EX*.* - Viewer" を選択して、アンインストールを実行します。(*.* は 3DxSUITE Viewer のバージョン番号)

サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

- コマンド例

```
Elysium_3DxSUITE_EX9.0_Visual.exe /s /x /v"/l* \"C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	アンインストールをサイレントモードで実行します。	必須
/x	アンインストールを実行します。	必須
/v	/v"<引数1><引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • /l* \"<ログファイル>\": ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間に半角スペースが必要です。 • /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 	任意

3. ASFALIS TransServerを利用する場合

本章では、ASFALIS TransServerを利用して、DFM Studioの検証実行環境を導入する手順について説明します。ASFALIS SmartLaunhcerを用いてDFM Studioを利用する場合、[2, ASFALIS SmartLauncherを利用する場合](#)を参照ください。

3.1. ASFALIS Slave Nodeの導入

3.1.1. ASFALIS Slave Nodeの新規インストール

ASFALIS TransServerを利用する場合、検証実行用のマシン設定として、Slave Nodeの設定を行う必要があります。

1. slavenode_for_dfmstudio_v#.##.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）に配置して、解凍します。
2. 以下のインストーラーを実行して、ASFALIS Slave Node を導入してください。
導入手順の詳細は、別冊 "ASFALIS スレーブノード インストールガイド" を参照してください。

[ASFALIS Slave Node インストーラー]

```
slavenode_for_dfmstudio_v#.##\installer\setup.exe
```

[ASFALIS スレーブノード インストールガイド]

```
slavenode_for_dfmstudio_v#.##\document\SlaveNode_InstallationGuide_ja.pdf
```

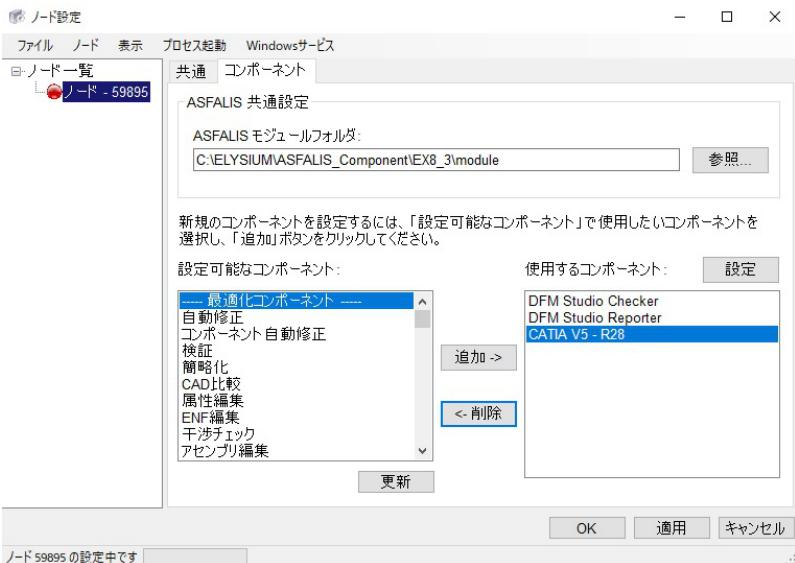
3. 以下の手順で追加設定を行います。
 - a. DFM Studioモジュールのパッチを適用します。
 - slavenode_for_dfmstudio_v#.##\slavenode_patch\component_64bit\bin フォルダー内のCADfeature フォルダーと tools フォルダーを、<ASFALIS Slave Node導入フォルダ>\module フォルダー内の同名フォルダーに上書きします。
 - <ASFALIS Slave Node導入フォルダ>\module
 - slavenode_for_dfmstudio_v#.##\slavenode_patch\SlaveNode_64bit\config フォルダー内のAsfaliscConfig_Setting.xmlを、<ASFALIS Slave Node導入フォルダ>\config フォルダー内の同名ファイルに上書きします。
 - b. <ASFALIS Slave Node導入フォルダ>\module\tools\win 以下に次のフォルダー、ファイルが存在していることを確認してください。
 - dfmstudio フォルダー
 - dscheck.cmd
 - dsreport.cmd

- c. Windowsの[スタート] - [すべてのプログラム] - [Elysium ASFALIS Component] - [EX#.#] - [ノードの設定]にて、コンポーネントを追加してください。

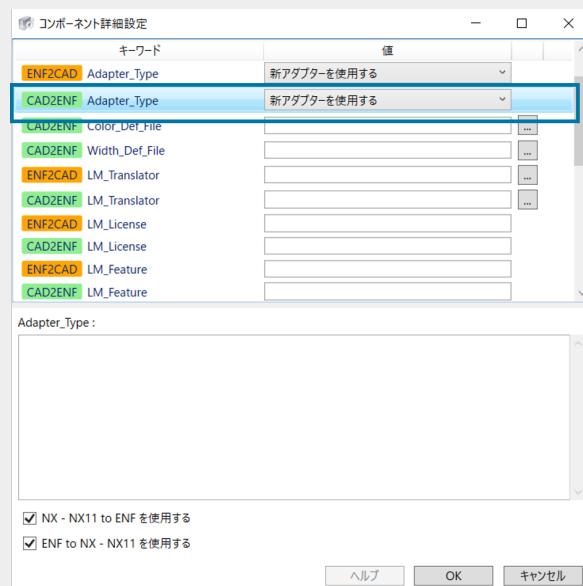
例

- "CATIAV5 – R28" → CATIAV5R28用のCADコンポーネント
- "NX – NX12" → NX12用のCADコンポーネント
- DFM Studio チェッカーのコンポーネント → DFM Studio Checker
- DFM Studio レポーターのコンポーネント → DFM Studio Reporter

CATIAV5R28用コンポーネントとDFM Studio Checker, DFM Studio Reporterを選択した例



なお、NXとCreoのCAD2ENFの設定は"新アダプター"である必要があります。コンポーネントの設定で確認し、旧アダプターを使用する設定になっていた場合は変更してください。



4. ASFALISスレーブノードを起動してください。

◦ 起動/全て起動

- ASFALISスレーブノードの起動・停止、コンポーネントの追加の詳細について
は、ASFALIS スレーブノード インストールガイド(SlaveNode_InstallationGuide_ja.pdf)
を参照してください。

3.1.2. DFM Studioモジュールのバージョンアップ手順

- ASFALIS TransServerを利用して既存のDFM Studioバージョンをご利用の場合は、下記手順に従ってバージョンアップを行ってください。

- 新たなバージョンのDFM StudioモジュールのパッチをSlave Nodeに適用します。

slavenode_for_dfmstudio_v#.#.#\slavenode_patch\component_64bit\bin\tools\winフォルダー内のdfmstudioフォルダー(本バージョン)を、



<ASFALIS Slave Node導入フォルダー>\module\tools\winフォルダー内の同名フォルダーに上書きします。

- ASFALIS TransServerの 管理者機能 / シナリオ管理 より、既存のバージョンで利用していたシナリオを無効化します。
- 新たなバージョンのシナリオを同上のシナリオ管理よりインポートします。

- 新たにASFALIS TransServerの導入は不要です。

3.2. ASFALIS TransServerの導入

3.2.1. ASFALIS TransServerの新規インストール

本章では、ASFALIS TransServerを新規に導入する手順を説明します。

1. transserver_for_dfmstudio_v#.##.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）に配置して、解凍します。
2. 以下のインストーラーを実行して、ASFALIS TransServer を導入してください。
導入手順の詳細は、別冊 "ASFALIS TransServer インストールガイド" を参照してください。

【ASFALIS TransServer インストーラー】

```
transserver_for_dfmstudio_v#.##.\installer\setup.exe
```

【ASFALIS TransServer インストールガイド】

```
transserver_for_dfmstudio_v#.##.\document\TransServerInstallationGuide_ja.pdf
```

3.3. ASFALIS TransServerの設定

1. ASFALIS TransServerを起動します。
 - ASFALIS TransServerの起動については、ASFALIS TransServer インストールガイド (TransServerInstallationGuide_ja.pdf)の「3. 起動手順」を参照してください。
2. ASFALIS TransServerにログイン後、管理者機能 / サービスマニタにてノードの設定を行います。
 - a. 「編集」ボタンを選択します。すでに別のノードが設定されていて、新たにノードを設定する場合は、「追加」を選択します。
 - b. ホスト欄にスレーブノードのマシン名、ポート欄にコンポーネントが設定されたポート番号(59859など)を記入し、「保存」ボタンを選択します。
3. ASFALIS TransServerの管理者機能 / コンポーネント管理より、dscheckとdsreportを有効化してください。

内部名	種別	名前	説明	エクスポート可
<input checked="" type="checkbox"/> dscheck	canvas	DFM Studio Checker	DFM Studio Checker	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> dsreport	canvas	DFM Studio Reporter	DFM Studio Reporter	<input checked="" type="checkbox"/>

4. ASFALIS TransServerの管理者機能 / シナリオ管理より、以下のATSシナリオファイルをインポートします。zip形式のままインポートしてください。

transserver_for_dfmstudio_v#.##\scenario\japanese\dfmstudio_v#.##_scenario_check.zip

検証のみを実行するシナリオが含まれています。

transserver_for_dfmstudio_v#.##\scenario\japanese\dfmstudio_v#.##_scenario_check_report.zip

検証およびレポート出力を実行するシナリオが含まれています。

transserver_for_dfmstudio_v#.##\scenario\japanese\dfmstudio_v#.##_scenario_report.zip

レポート出力のみを実行するシナリオが含まれています。



- zip形式のままインポートしてください。



- レポート出力を行うには、DFM Studio Reporterのライセンスが必要です。

5. インポート後、シナリオ一覧に下記シナリオが追加されていることを確認してください。

インポートファイル	ASFALIS TransServerへ登録されるシナリオ
dfmstudio_v#.##_scenario_check.zip	樹脂要件チェック(CATIA V5向け) 板金要件チェック(CATIA V5向け) 樹脂要件チェック(NX向け) 板金要件チェック(NX向け) 樹脂要件チェック(Creo向け) 板金要件チェック(Creo向け) 樹脂要件チェック(SOLIDWORKS向け) 板金要件チェック(SOLIDWORKS向け) 樹脂要件チェック(ENF向け) 板金要件チェック(ENF向け)
dfmstudio_v#.##_scenario_check_report.zip	樹脂要件チェック_レポート付(CATIA V5向け) 板金要件チェック_レポート付(CATIA V5向け) 樹脂要件チェック_レポート付(NX向け) 板金要件チェック_レポート付(NX向け) 樹脂要件チェック_レポート付(Creo向け) 板金要件チェック_レポート付(Creo向け) 樹脂要件チェック_レポート付(SOLIDWORKS向け) 板金要件チェック_レポート付(SOLIDWORKS向け) 樹脂要件チェック_レポート付(ENF向け) 板金要件チェック_レポート付(ENF向け)
dfmstudio_v#.##_scenario_report.zip	樹脂要件チェック用レポート出力(自動キャプチャーあり) 樹脂要件チェック用レポート出力(自動キャプチャーなし) 板金要件チェック用レポート出力(自動キャプチャーあり) 板金要件チェック用レポート出力(自動キャプチャーなし)

6. 不要なシナリオがある場合は、無効化してください。
7. 上記のシナリオを用いて、ASFALIS TransServerへジョブ投入を行い、DFM Studio Checker/Reporter の動作確認を行ってください。
 - ASFALIS TransServerへのジョブ投入の詳細については、
「DFM_Studio_Quick_Start_Guide_ja.pdf」の「1.1 ASFALIS TransServerを利用する場合の検証実行方法」を参照ください。

3.4. DFM Studio Inspectorの導入

1. dfmstudio_v#.##_inspector.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）にコピーして展開します。
2. 以下のインストーラーを実行して、DFM Studio Inspector(以下、Inspectorと呼びます)を導入します。

[DFM Studio Inspector インストーラー]

dfmstudio_v#.##_inspector\installer\setup.exe



インストールは Administrator 権限のあるユーザーで行ってください。

3.4.1. 実行時の注意事項

Inspector実行時には、以下のフォルダーのアクセス権限が必要です。

- %TMP%、%TEMP%、%APPDATA%（変更権限）
- ファイル出力フォルダー（変更権限）

3.4.2. 動作環境

CPU	Windows 10 Pro 64ビット版（*1）が稼働可能なCPU
OS	Windows 10 Pro 64ビット版（*1）
メモリー	4GB以上(推奨 8GB)
ストレージ	500MB以上の空き容量
ディスプレイ	1280×1024ドット以上表示可能なディスプレイ、ダブルバッファに対応したOpenGLビデオボード（*2）

（*1）Windows は米国 Microsoft 社の登録商標です。

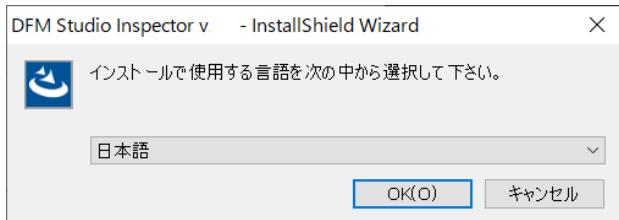
（*2）OpenGL は米国 Hewlett Packard Enterprise社の登録商標です。

3.4.3. DFM Studio Inspectorのインストール

1. インストーラーの起動

- dfmstudio_v#.#.inspector\installer\setup.exe を実行します。

2. セットアップ言語の選択



- 日本語を選択し、「OK」を選択します。

3. セットアップ前提条件

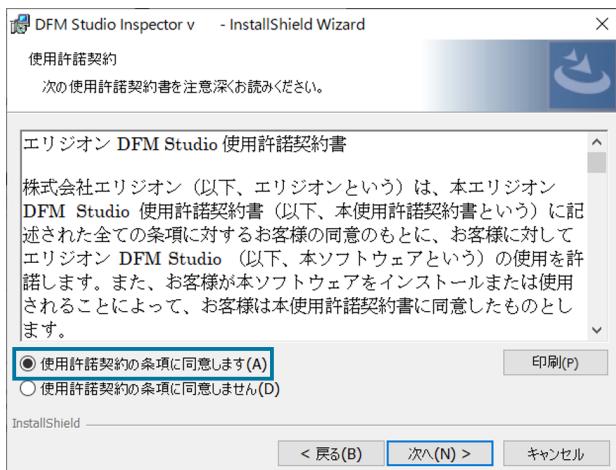
- ランタイムのインストールを促すダイアログが表示された場合は「インストール」を選択します。
- 前提条件が揃っている場合、このダイアログは表示されません。

4. Inspector のセットアップ



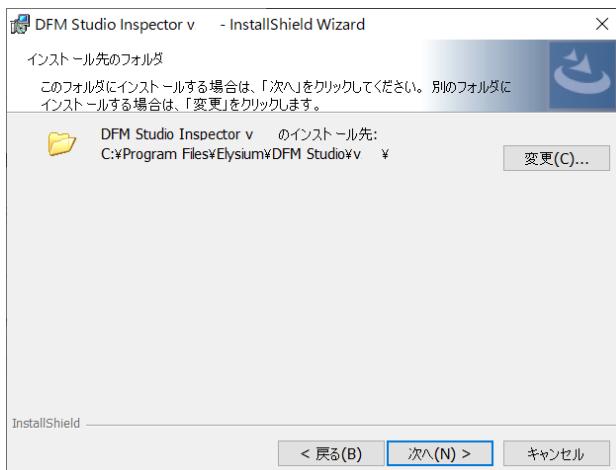
- 「次へ」を選択します。

5. 使用許諾契約



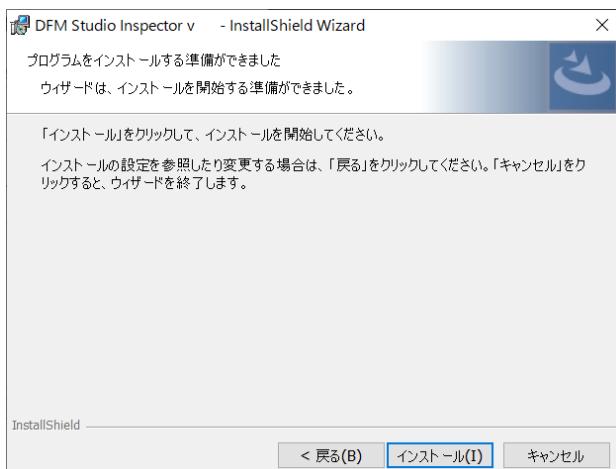
- 契約内容を確認後、「次へ」を選択します。

6. インストール先の選択



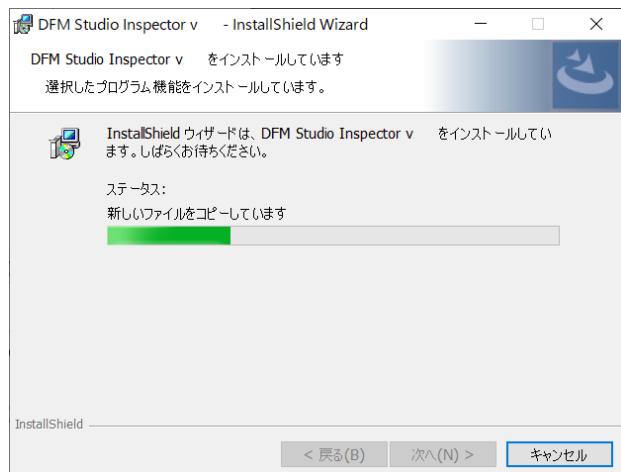
- インストール先フォルダーを指定し、「次へ」を選択します。

7. インストールの確認

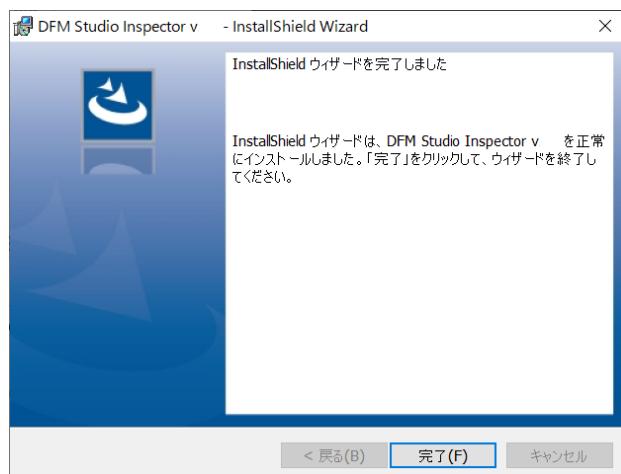


- 「インストール」を選択します。

8. インストールの実行



9. インストールの完了



- 「完了」を選択して、インストールを終了します。

3.4.4. DFM Studio Inspectorのサイレントインストール

サイレントインストールでは、インストーラーのGUI操作を行うことなく製品を導入できます。複数のPCへのインストールを行う際などに便利な機能です。

サイレントインストール

コマンドにて Inspector の新規導入やアップグレードを行います。

実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンドライン引数の説明をご参照ください。

例:

```
D:\share\installer\setup.exe /s  
/v"/l* ^"C:\temp\install.log"^" INSTALLDIR="^"C:\Program Files\Elysium\DFM  
Studio\v" /qn"
```

サイレントアンインストール

コマンドにてサイレントアンインストールを行う手順です。

以下のコマンド例とコマンドライン引数の説明をご参照ください。

例:

```
D:\share\installer\setup.exe /s /x /v"/l* ^"C:\temp\uninstall.log"^" /qn"
```



- 現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

コマンドライン引数

サイレントインストールを実行する際にインストーラー (setup.exe) に渡すコマンドライン引数の一覧です。

コマンド引数	説明
/s	インストールやアンインストールをサイレントモードで実行します。
/x	アンインストールを実行します。
/x	設定しない場合はインストールが実行されます。
/v	<p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。 (Msieexecに引数を渡す)</p> <ul style="list-style-type: none"> • /qn : インストール時にダイアログを表示しません。 • /qn+ : インストール完了時にダイアログを表示します。 • /l* '<ログファイル>' : ログファイルのパスを指定します。 (/l*とファイル名の間に半角スペースが必要) • INSTALLDIR="<インストールフォルダー>": インストール先のフォルダーを指定します。 (インストール時のみ指定が必要)

3.5. 3DxSUITE Viewer (Model Viewer)の導入

- modelviewer_for_dfmstudio_v#.#.#.zip をインストールするPCのローカルフォルダー（例：C:\temp）にコピーして展開します。
- 以下のインストーラーを実行して、Elysium 3DxSUITE Viewer(以下、3DxSUITE Viewerと呼びます。)を導入します。

[Model Viewer インストーラー]

modelviewer_for_dfmstudio_v#.#.#\installers\Elysium_3DxSUITE_EX*.*_Viewer.exe



インストールは Administrator 権限のユーザーで行ってください。

3.5.1. 動作環境

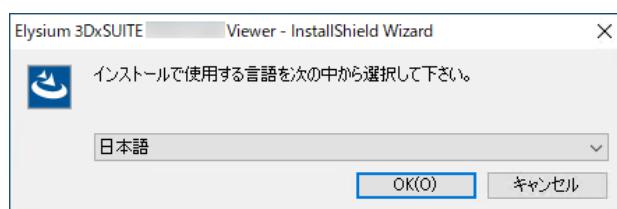
CPU	Windows 8.1 Pro 64-bit、Windows 10 Pro 64-bit (1909 - 21H1) (*1) が稼働可能なCPU
メモリー	2GB 以上 (推奨4GB)
OS	Windows 8.1 Pro 64-bit、Windows 10 Pro 64-bit (1909 - 21H1) (*1)
対応言語	日本語、英語、中国語 (簡体字)
ディスプレイ	1280×1024 ドット以上表示可能なディスプレイ ダブルバッファに対応した OpenGL ビデオボード (*2)

(*1) Windows は米国 Microsoft 社の登録商標です。

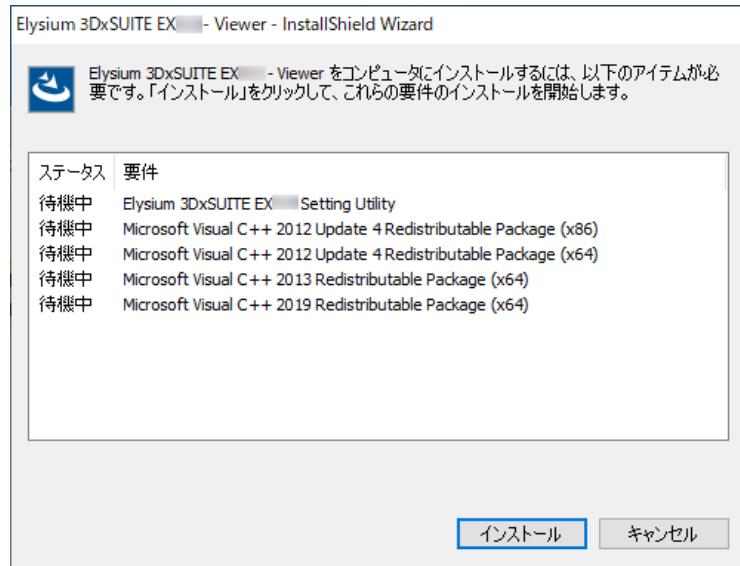
(*2) OpenGL は米国 Hewlett Packard Enterprise社の登録商標です。

3.5.2. 手動インストール

- 3DxSUITE Viewer のインストーラーを実行します。
 - インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX*.*_Viewer.exe
(EX*.* は 3DxSUITE のバージョン)
- インストールで使用する言語を選択して[OK]を選択します。

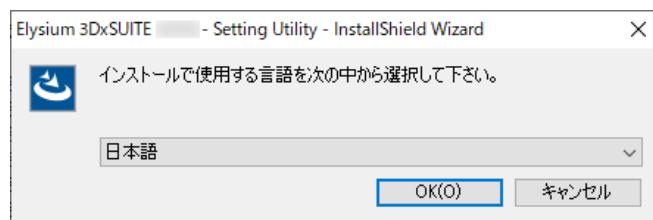


- このダイアログが表示された場合、[インストール] を選択してインストールを行います。(既にインストールされている環境では、このダイアログは表示されません。)



4. 3DxSUITE 設定ユーティリティがインストールされていない場合、3DxSUITE 設定ユーティリティのインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。3DxSUITE 設定ユーティリティが既に導入されている場合は、3DxSUITE 設定ユーティリティインストール後の手順へ進んでください。

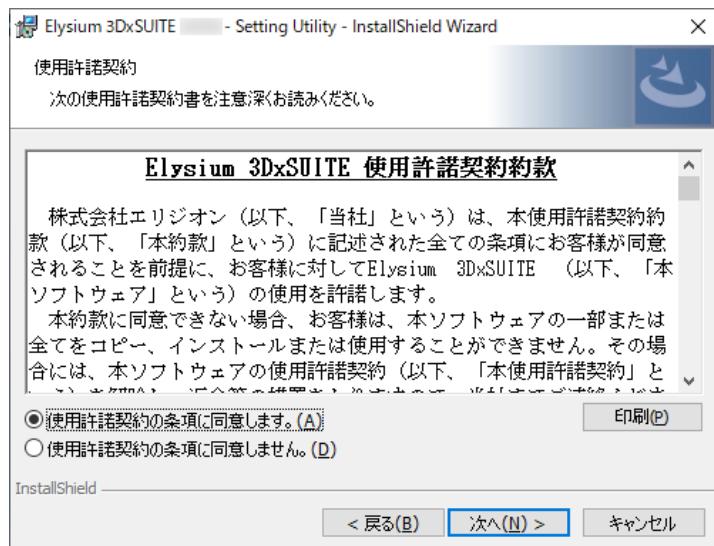
a. インストールで使用する言語を選択して [OK] を選択します。



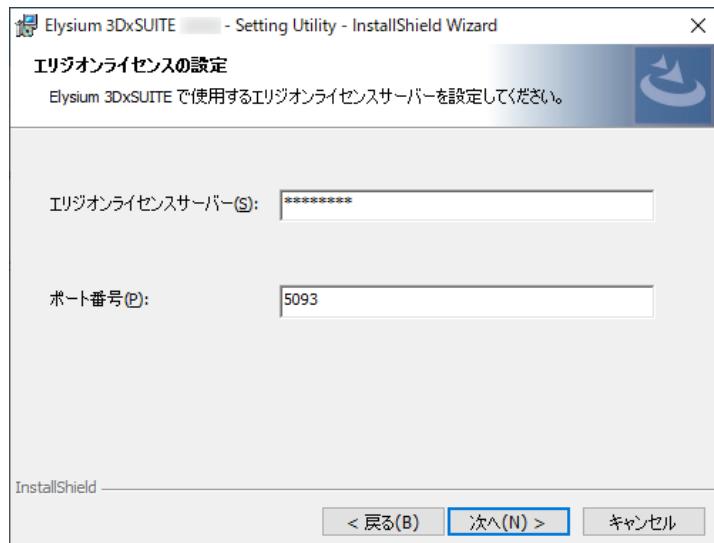
b. インストールウィザードが起動します。[次へ] を選択します。



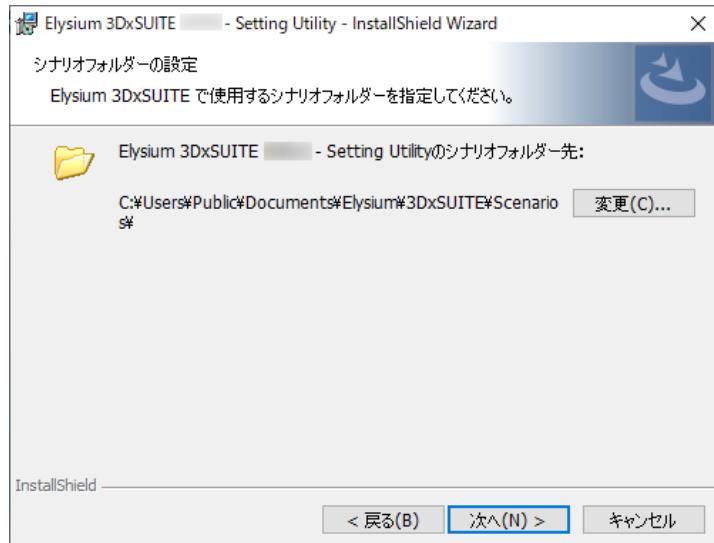
c. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には「使用許諾契約の条項に同意します」を選択して [次へ] を選択します。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



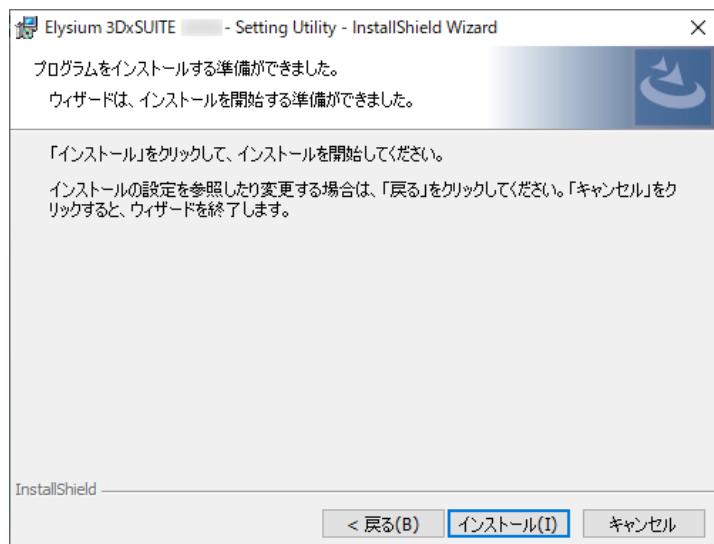
- d. ライセンスの設定画面が表示されます。Sentinel RMS License Manager をインストールしたコンピューターのホスト名を入力し、必要であればポート番号も変更した上で [次へ] を選択します。



- e. シナリオフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] を選択します。



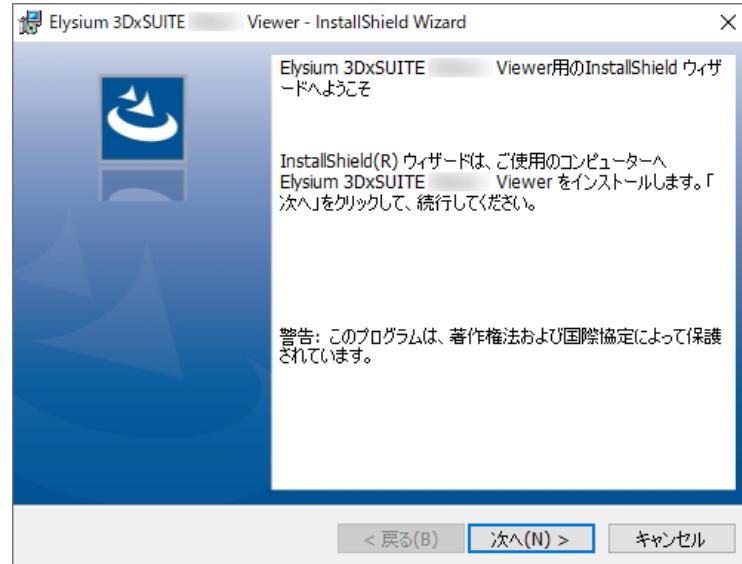
f. [インストール] を選択してインストールを開始します。



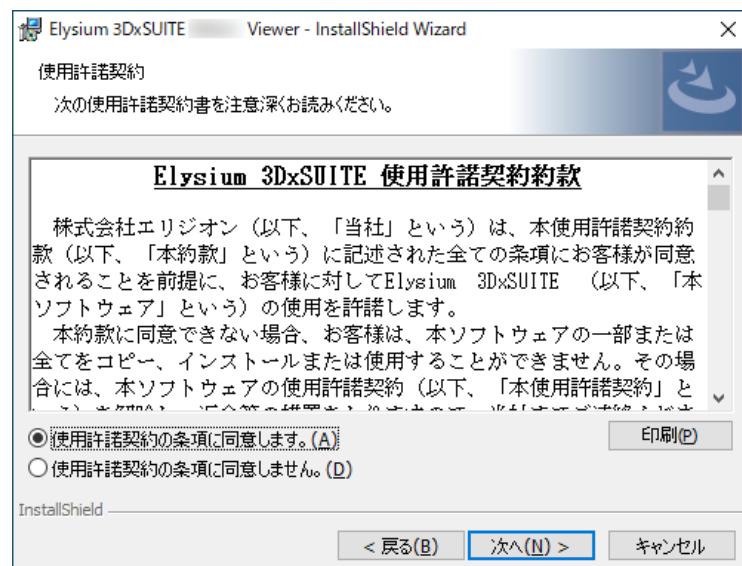
g. 3DxSUITE 設定ユーティリティーのインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] を選択してインストーラーを終了します。



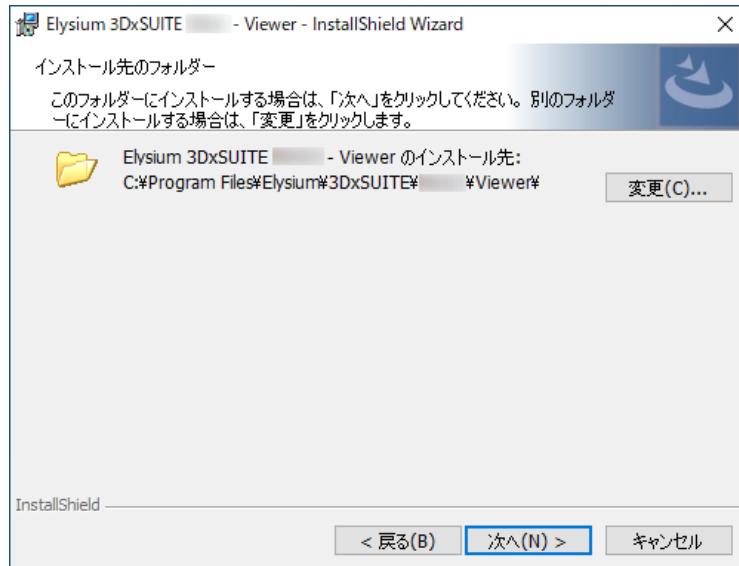
5. Viewer のインストールウィザードが表示されます。「次へ」を選択します。



6. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には「使用許諾契約の条項に同意します」を選択してから [次へ] を選択します。

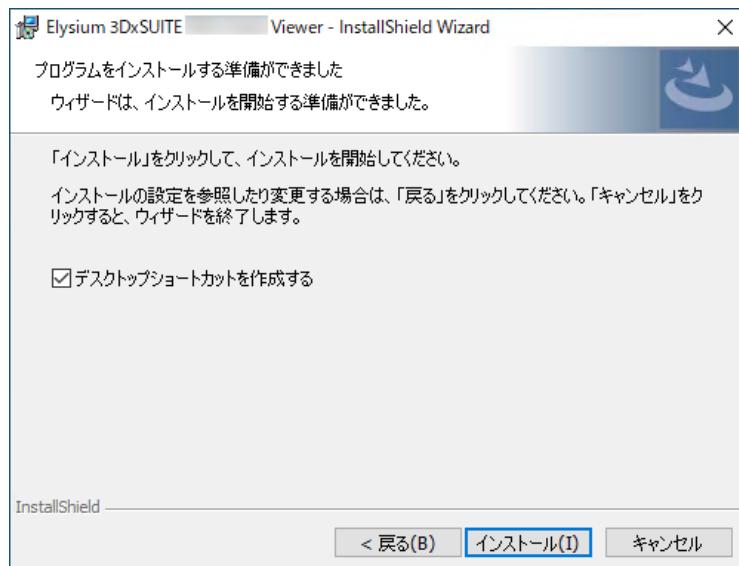


7. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] を選択して変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら、[次へ] を選択します。

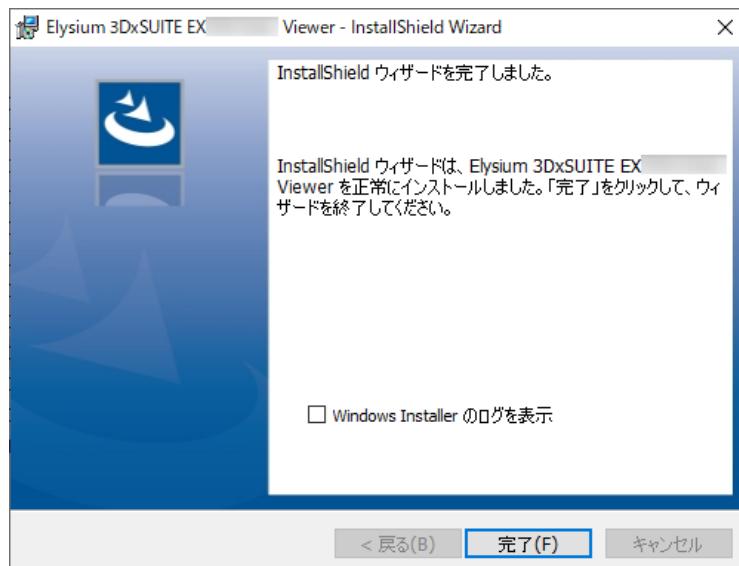


インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

- 以下のダイアログが表示されます。デスクトップショートカットを作成しない場合はチェックを外します。[インストール] を選択してインストールを開始します。



- インストールが終了すると以下のダイアログが表示されます。[完了] を選択してダイアログを閉じます。



3.5.3. サイレントインストール

コマンドにて 3DxSUITE Viewer の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明をご参照ください。

- コマンド例

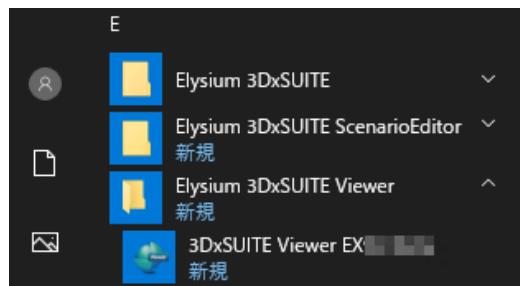
```
Elysium_3DxSUITE_EX9.0_Viewer.exe /s /v"/l* \"C:\temp\install.log\"  
INSTALLDIR=\"C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\EX9.0\Viewer\" /qn"
```

サイレントインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	インストールをサイレントモードで実行します。	必須
/v	<p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /l* "<ログファイル>": ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間に半角スペースが必要です。 • INSTALLDIR="<インストールフォルダー>": インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。 • /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 	任意

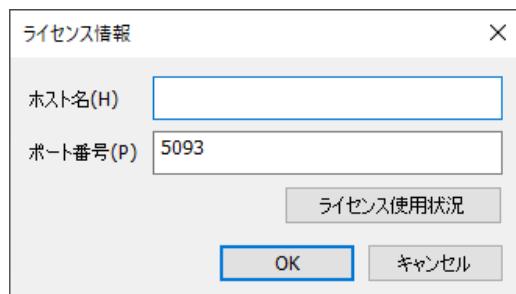
3.5.4. 起動手順

Windows スタートメニューから [Elysium 3DxSUITE Viewer] - [3DxSUITE Viewer EX*.*] を選択します。(*.* は 3DxSUITE Viewer のバージョン番号)



ライセンス設定

インストール後、初めて 3DxSUITE Viewer を起動する時にライセンス設定のダイアログが表示される場合があります。次回起動時からは、このダイアログは表示されません。なお、本ダイアログは 3DxSUITE Viewer 起動後に [ヘルプ] - [ライセンス情報] を選択して開くこともできます。



"ライセンス使用状況" を選択するとライセンスの使用状況を確認することができます。



- ライセンス情報ダイアログで初期値を変更して [OK] を選択した場合、3DxSUITE Viewer を利用する全ユーザー共通の設定としてライセンス情報が保存されます。その場合、後で 3DxSUITE 設定からライセンスに関する設定を変更しても、3DxSUITE Viewer のライセンス情報は変更されません。
- ライセンス情報ダイアログで初期値を変更しても [OK] を一度も選択していない場合、3DxSUITE 設定に設定されている内容を参照してライセンスを確保します。そのため 3DxSUITE 設定でライセンスに関する設定を変更すると、3DxSUITE Viewer のライセンス情報も変更されます。

3.5.5. 終了手順

メニューの [ファイル] - [アプリケーションの終了] を選択するか、ウインドウを閉じて終了してください。

3.5.6. アンインストール手順

手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3DxSUITE EX*.* - Viewer" を選択して、アンインストールを実行します。(*.* は 3DxSUITE Viewer のバージョン番号)

サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

- コマンド例

```
Elysium_3DxSUITE_EX9.0_Visual.exe /s /x /v"/l* \"C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

コマンド引数	説明	必須 / 任意
/s	アンインストールをサイレントモードで実行します。	必須
/x	アンインストールを実行します。	必須
/v	/v"<引数1><引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • /l* \"<ログファイル>\": ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間に半角スペースが必要です。 • /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 	任意

本コンテンツに関する著作権は株式会社エリジオンもしくは原権利者に帰属しています。
著作権者の承諾なしに無断で改変、複製、転載、再配布、転送、公衆送信、販売、貸与などの
行為をすることは禁じられています。